

特定非営利活動法人会津ワイナリー会
2020年度事業報告

1. 総括

- 1) 世界に蔓延したコロナ禍と全国的な気候変動の中で、当会の事業も大きな影響を受けた。
- 2) コロナ禍の影響は、①全国的な移動自粛からグリーンツーリズムや試飲会の中止を余儀なくされ会員誘致、ワイン寄付金が大きく減少した。②4月～6月の栽培作業を現地協力者等に委託したため委託費が大きく膨張した。
- 3) 異常な長梅雨、一転猛暑、秋雨の影響は、①例年よりはるかに早い7月中旬より灰カビ病が発生し、さらにベト病、白腐病、日照り枯れが継続的に続き収穫が15%程度減少し、②薬剤散布、駆除委託費が膨張した。
- 4) また、これらは年間事業計画に対しても、①栽培パートナー制度設立②ワイナリーツーリズム実施による既存ワイナリー研修③ふくしまワイン広域連携協議会参画による福島アライアンス構築④ICT技術の研究・活用による気象データ習得、鳥獣被害対策等の実施に大きな制約を与え、多くの未達事業が生まれた。
- 5) 一方、政府持続化給付金200万円を採択頂いたことにより、コロナ禍、異常気象による収支悪化を補うことができた。

2. 会員勧誘活動

- ・目標会員数 正会員 新勧誘目標15名 ⇒実績11名（賛助→正会員3名含む、累計101名）
賛助会員 新勧誘目標25名 ⇒実績8名（累計76名） 以上12.31時点
- ・目標会費額 正会員・賛助会員合計 目標190万円 →実績152.5万円
- ・広報活動 ホームページからの情報発信 ⇒継続強化し計41回発信と昨年比91%、地元協力者情報等内容充実

3. ぶどう栽培活動

- ・ぶどう苗作付 苗10本購入し1号畑を中心に補植
- ・ぶどう畑管理 計9反、計354本を栽培管理、収穫量：約3.2トン（1～7号畑合計）
定植、誘引、薬剤散布、レインカット施工（新規2反）、ビニール掛け、病害駆除、剪定等を実施。
⇒福島県下長梅雨、猛暑等の天候不良に見舞われる中で1～5号畑の育成は概ね良好であったが、7月の灰カビ病、8月のベト病、9月上旬の灰カビ病・白腐れ病が蔓延し、防鳥ネット施工が不十分で、4～7号畑で被害を受けた鳥害、日照り害を含め収穫が約15%（約550kg）減じた。
⇒対策として病害対応ローテーション実施。
- ・栽培体制 一条悟氏の指導により渡辺博仁氏、橋本竜太郎氏に栽培、薬剤散布を委託した。会員を対象としたグリーンツーリズム、栽培体験（ボランティア）は全く実施できなかったが、理事を中心とする会員有志による体制で乗り切った。
（栽培時間：合計1,930時間のうち、委託者：515時間、シルバー：261時間、ボランティア：1,153時間）

4. イベント活動（コロナ禍、移動自粛の中、計画したグリーンツーリズムは過去の参加者を中心とした会員有志により実施）

- 1) (4.6-7 植樹祭) →首都圏7名、会津4名の11名で実施
- 2) (4.24~5.8 ビニール掛け) →首都圏より参加できず地元支援者2名・シルバー4名・専門業者1名により実施（実質委託費＝地元・シルバー：5,100円/連、専門業者：8,600円/連、計35万円）
- 3) (7.10~9.5 病害対応・誘引剪定) →延べ60人日、首都圏より45人日、会津より15人日が参加して実施
- 4) (8.14-15 ネット張り、糖度確認) →首都圏2名を含め3名参加
- 5) (9.20/27 収穫祭) →延べ46人、首都圏より35人、会津より6人、南相馬より5人が参加
- 6) (10.9-11.8 ビニール撤去) →計6日、延べ21人日、首都圏15人日、会津6人日で実施
- 7) (11.23-24 剪定、ネット上げ) →計6日、延べ16人日、首都圏8人日、会津8人日で実施
以上7回の計画グリーンツーリズムに合計164名が参加
- 8) 第1回ワイナリーツーリズム（10.31-11.1 山形県4ワイナリー）→19名参加
- 9) 第2回ワイナリーツーリズム（12.12 新潟ワイナリー）→延期
以上19名参加

5. 助成金等の確保

- ・第4回うつくしま基金応募→採択（20年度補助金:43万円）→南会津町、下郷町ヒアリング実施中
- ・福島フォレスト補助金応募→採択（20年度補助金:20万円）→21年度に繰り越し
- ・理事間の情報収集、分析により通産省持続化給付金申請し、12月14日入金（200万円）を受けた。

6. ワイン委託醸造

- 1) 郡山逢瀬ワイナリー約1.1t委託。9.20納品23仕込、2月瓶詰、3月末ラベル貼、その後発送予定（882本）
- 2) 甲州大和葡萄酒約1.0t委託。9.21納品・22仕込（樽1）、3月末瓶詰、4月ラベル貼、その後発送予定（約960本）
- 3) 秩父兎田ワイナリーへ約1.16t委託。9.27納品28仕込、2月瓶詰、3月ラベル貼、その後発送予定（573本）
以上合計約2,400本のワイン完成を想定

7. 中期計画第1年度

(1) 作付け6年目を迎え今後5年間の栽培体制の確立

- 1) 登録制による「栽培サポーター制度」の新設は、栽培体験事業グリーンツーリズムが実施できずコロナによる自粛の関係からスタートできず。
- 2) 栽培サポーターが現地で宿泊するとともに、地域への農業従事者誘致のための栽培体験宿泊施設の自治体働きかけは情報収集どまりで、次年度実施予定。
- 3) 軽トラックまたは軽自動車をレンタル契約は進行中。

(2) 将来のワイナリー建設のに向けた醸造技術の習得

- 1) ワイナリーツーリズムの継続による先進ワイナリーや福島県内の既存ワイナリーとの醸造技術習得連携、委託醸造を通じワイナリー研修は逢瀬ワイナリーとの足掛かりをつくる。

(3) 六次産業化に向けた販売ルートの確立

- 1) 事業費確保のために、栽培ぶどうの外販を実施。
- 2) ICT化等に対する研究開発費取得の福島県関連補助制度は次年度実施予定。
- 3) NPOによる酒類販売免許の取得を検討。

(4) ワインづくり思想に基づくワイナリー事業の検討

- 1) 栽培、醸造、販売の六次産業化実現に向け、NPOと新組織の役割分担の検討は未達。
- 2) 福島県内のワイナリー立地の新しい在り方、複合施設の新形態、地域活性化に熱心な自治体ヒアリング等は補助制度により検討中。

(5) ICTを活用したデータ収集、病害・獣害等への備え

- 1) 病虫害対策を強化するために、ICTを活用した気象データ、現地作柄データのモニタリング・データ化手法を先進ワイナリー等にヒアリングし、具体的な方策の検討は未達。

(6) 福島ワイン文化醸成に向けた広域ネットワークの構築

- 1) 「ふくしまワイン広域連携協議会」へ参画し福島県ワイン文化醸成、ふくしまワイン街道構築の足がかりづくりは会津地域のワイナリーとの連携を進めている。

8. その他事項

- 1) 畑周辺に活動の拠点となり倉庫兼会員の休憩所となる施設の確保→福島県及び近隣自治体の移住支援制度及び移住支援施設調査を実施。
- 2) 消毒剤の誤飲事故を猛省し、薬剤は一括して栽培委託者渡辺氏が専門箱に施錠管理することとした。

9. 理事体制

- ・新たな体制で執行した。

以上